

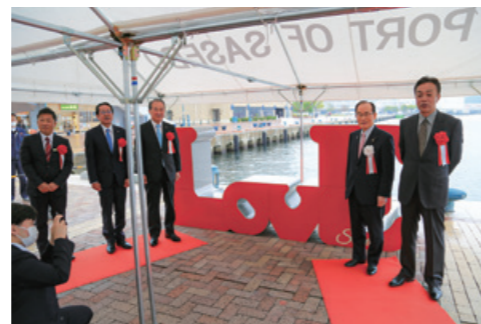
市民の方から寄せられた市政へのご意見や感想などを紹介します。

質問 させぼ五番街に新しく「LOVE」という文字のオブジェが設置されていました。オブジェの意味を教えてください。

回答 このオブジェは、佐世保港湾運輸株式会社が創設80周年を記念して本市へ寄贈されたものです。4月21日(木)に、させぼ五番街大やね階段前ひろばで除幕式が行われました。港の新たなシンボルとして設置された「LOVE」の文字には、家族や友人、恋人など周囲の人への愛、そして地元佐世保など地域への愛を育んでほしいという思いが込められています。

御影石(花こう岩)で作られているこのオブジェは、LとEの高さが1.4m、幅が3.27m、奥行きが0.5mです。家族や友達と思い出の撮影に、佐世保の新しいフォトスポットにぜひお越しください。

📍みなと振興・管理課 ☎ 22-6129



設置されたオブジェ(写真上)、除幕式の様子(写真下)

広報アンケート

「広報させぼ6月号」満足度アンケート

次の①～④のうち、当てはまる番号をお答えください。

- ①大変良い ②良い ③不満 ④大変不満

応募方法

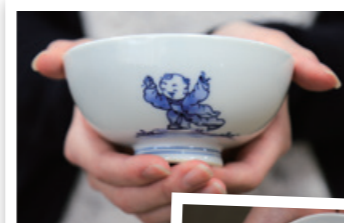
「はがき」か「Eメール」または「応募フォーム」に、
 ①「広報させぼ」満足度アンケートの該当番号②住所③氏名④年齢⑤電話番号⑥広報紙(特集)へのご意見⑦広報紙(特集以外)や市政に関するご意見を書いて、6月22日(水)までに(消印有効)広報係へ。
 ※応募は1人1通、応募者の中から抽選で決定します。発表は発送(7月中旬)をもって代えさせていただきます。

4月号の応募状況 518通(正解 475・不正解 21・無効 22)

6月号プレゼント

5名様

三川内焼のオリジナルお茶碗



市の管理栄養士と保健師、三川内焼の窯元が協同で制作した「三川内焼のオリジナルお茶碗」。1杯のご飯の適量(150g、250kcal)がラインで示されていて、簡単に健康管理ができる健康応援グッズです。

📍医療保険課 ☎ 24-1111

宛て先

はがき 〒 857-8585 (住所不要) 佐世保市役所秘書課広報係宛て
 Eメール hishok@city.sasebo.lg.jp (携帯電話からも可)



左記の画像を読み込むと応募画面が表示されます。

「佐世保人物事典」が発刊されました



佐世保史談会が創立60周年を記念し、知る・学ぶ・伝える～ふるさと再発見～佐世保に足跡を残した411人と題して「佐世保人物事典」を発刊されました。

この人物事典には、古くは資料が残る戦国時代末期から江戸時代初期にこの地を統治した松浦藩初代藩主松浦鎮信公から、江戸時代、明治、大正、昭和、平成のそれぞれの時代にさまざまな分野において活躍した「人」(故人限定)が掲載されています。これまで歴史の流れの中で、その時々活躍した人の名前が出てくる歴史書や、市史・町史はありましたが、「人物」に焦点を当て時代を超えてまとめた書物はありませんでした。

そこで、佐世保史談会の中島眞澄会長が「我がふるさと『佐世保』に、人の生きた証を掘り起こす試みは並大抵のことではない。しかし、いつの世もそうであるが、歴史の片隅で人は紛れもなく生きてきた。先史時代の人も、古代・中世の人も、その痕跡を随所に残しており、生きた証が近年明らかにされてきた。その時代を駆け巡り、活動したのは我々の祖先『地域人』なのである。その度に『佐世保人』たることに誇りを持つことになった。

(中略)しかし最近、戦後の荒れたこの地の復興と発展に力を尽くした人の姿が見えなくなった。高度経済成長の中、

若者は東京や大阪などの大都市に憧れ、そこで人生の終焉を迎える人も少なくない。彼らは郷土の美しさや素晴らしさを忘れつつあるのではないか。人の優しさや、安らぎを感じることもなく、生きていくための夢や志も見失ってしまった人がいるように思う。そんな人が佐世保に帰り、ほっとするような街にせねばならない。あちこちに人があふれ、この地から文化を再発信する街にせねばならない。その原動力は『人』なのである。この『佐世保人物事典』が、佐世保の未来に役立つことを願い、祖先を敬う心や、ひいては故郷を愛する心につながれば、私たちの努力も多少は報われると思うものである」と発刊の言葉に、編さんの動機を述べられます。

この人物事典は、6年間にわたり資料収集や検証、五十数回もの査読会が行われるなど、史談会会員で12人の執筆者や、編集・出版委員の他、資料提供者や聞き取り協力者など多くの皆さまの「情熱と、させぼ愛」の結晶です。改めて中島会長はじめ会員、関係者の皆さまに、感謝とお礼を申し上げて「佐世保人物事典」の紹介といたします。

市民の皆さまには、図書館や学校、地区コミュニティセンターに置かれているこの本を、機会を作ってお読みになれることをお勧めします。

佐世保市長 朝長 則男

徳育通信 122

聞いて「徳」する話 83 意思を伝えるということ

交通安全運動に「手のひら運動」というのがあります。これは、歩行者が道路を渡る際に、安全に渡れるように車の運転手に手のひらを示して、横断の意思を伝えるといったものです。

皆さんは、バスに乗ろうとしているときにバスのドアが閉まったり、もう少しで間に合いそうといったときにバスが出発したりするなどの経験はありませんか。このような場面でも「手のひら運動」を実践できると思います。自分が乗りたいバスが来た時に手を上げておくと、バスはしっかりと止まってくれます。バスの運転手も、お客さんがバスに乗るか乗らないかはっきり分かれば、気持ちの面でも安心し、安全運転につながります。

また、バス停に自分しかおらず、自分が乗らないバスが来た時は、乗らないという意思を身振りや手振りですの

運転手に伝えることも大切だと思います。そうすれば、バスの無駄な発着や加速・減速が減り、環境負荷の軽減につながります。

安全のため、お互いの気持ちのため、そして地球環境改善のために、皆さんも「手のひら運動」をはじめ、自分の意思を伝えるということを試してみませんか。

(匿名希望)

「聞いて徳する話」募集中
 身の回りで見つけた「聞いて「徳」する話」を募集中です。応募用紙は事務局で配布しており、市ホームページからもダウンロードできます。
 📍佐世保徳育推進会議 ☎ 23-2856